

令和4年10月29日長野県図書館大会基調講演報告

中央図書館

「AI時代を生きるための力ー読解力の重要性と読書の意義ー」

国立情報学研究所 社会共育知研究センター センター長・教授
(社)教育のための科学研究所 代表理事・所長 新井紀子氏

1 講演内容

これからの時代、AIができる仕事が増えてくる。AIに仕事を奪われないためにも、自分で文章を読み学ぶ力、新しい技術を学び課題を解決する力をつけることが重要である。そのためにも、教科書が正確に読める子ども、意味がわかって読める子どもを学校・図書館・関わる大人たちが協力して育ててほしい。

(1) 「読む」とはということか

- ・「見る」と「読む」は違う。意味がわからないと読むことはできない。
- ・AIは「意味」を考えて読むことはできず、既存データの中から答えを出す。
- ・読解力をつけることで、まわり道となってもAIを超えることができる。

(2) 読解力についての現状

- ・子どもが「文の読み方」をわかっていないことが理解されていない。読むことは脳内で起きていることなので、子どもが文や図を「見て」いても、意味が分かって読めているのか、正確にわかっているかどうかは、先生が外から見てもわからない。そのため、文の読み方（文の構造）を小学校で教えていない。
- ・ドリル、ICTなどに時間を取られ、じっくり読む時間がどんどん減っている。
- ・穴埋めテストをしていると、キーワードの暗記のみになる。キーワードの勝負ではAIに負けてしまう。

(3) 読解力をつけるには

- ・人は中学卒業までに自分の読み方を決めてしまう。高校の教科書が「読める」ことがあたりまえになるために、文の構造がわかることが重要。小中学校で文の読み方＝構造を教える必要がある。
- ・読みやすいものばかり読んでも読解力は上がらない。スポーツのように、訓練して上達していくものである。

(4) RST（リーディングスキルテスト）

- ・「読む力」を図るテスト。短い説明文を読み、正確に読むことができているかをはかる。文の構造がわかるか、どういう文が読めてどういう文が読めていないのか検証している。
- ・その人の読解力に合わせて問題が出題され、分析ができる。
- ・テスト結果と学力は相関関係にある。

(5) 質問に答えて

〔質問〕読解力を段階的につけるためには何をしたらよいか。

- ・小さいことの積み重ね

まず視写 1分間で紙や黒板に書いてあることを書きとる訓練。書くことにより文の定型的なものを身につける。

聴写 先生が「今日の授業のめあて」などを言葉で伝えて書かせる。新しい語彙を知り、どんな時に使うかを知る。

- ・文学だけでなく、歴史、地理、説明文を読ませる。

〔質問〕読解力は表現力（書ける、コミュニケーション力）にもつながるか。

- ・書けるようになるには、目で見たと正確にその通りに書く訓練が必要。

客観的に正確に書くために、小学校で先生が子どもの書いたものにどれだけ朱を入れることができるか。

- ・書けた、書けるようになったということが子どもたちの自信につながっていく。
- ・正確に読み取る読解力は、正確に伝える力にもつながる。

2 図書館大会参加者アンケートから

- ・「読む」ことの意味を考えさせられた。たくさん読めば読解力もつくと考えていた。何が子どものためになるのか今一度考えたい。
- ・「読解力がないから本の内容がわからない。だから本がつまらない」—腑に落ちた。
- ・読解力がない子どもがいるという感覚はあったが、そのことに対する危機感を本当の意味で自覚するきっかけになった。
- ・読めているようで実は「重要そうな単語を拾い読んで、目が文章を滑っている」のだと腑に落ちた。本当に読める力をつけてあげる必要性を感じた。
- ・リーディングスキルテストの導入に興味を持った。読んでわかったように感じていても、実はよくわかっていないことが実際にたくさんあると思う。
- ・読むということがどういうことなのか改めてその根本を考える機会になった。
- ・自分で読み解く力があると、どんな環境にいても生きていけそう。読み方のトレーニングをどう積み重ねていくかが課題。学校、図書館でどんなサポートができるか考えたい。
- ・「意味が分かること」は、相手を知り思いやること、つながることとわかった。
- ・読解力は「推しはかる力」と言い換えることもできるのでは。
- ・あらためて言葉の大切さ、言葉で考えているということを思い出した。
- ・自分も読書の質を高めなければと思った。
- ・中学卒業までの日常が大切であることを実感した。

他多数